

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和08年02月27日

計画の名称	安全・安心な通学路を確保するまちづくり（防災・安全）													
計画の期間	平成 3 1 年度 ~ 令和 0 5 年度 （5年間）										重点配分対象の該当	○		
交付対象	岡山市													
計画の目標	歩行者、自転車の安全を図り、小中学生の交通事故死傷者数を減らす。													
	市が管理する通学路において、対策が必要な危険箇所を改良し交通安全対策を行う。													
	未就学児が日常的に集団で移動する経路における交通安全対策を行う。													
全体事業費（百万円）	合計（ A + B + C + D ）		580	A	580	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / （ A + B + C + D ）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H30当初	H33末	H35末
1	小中学生の歩行中、自転車乗車中の交通事故死傷者数を 1 5 %減少させる			
	目標年度における小中学生の歩行中、自転車乗車中の事故件数 / 平成 3 0 年度における小中学生の歩行中、自転車乗車中の事故件数	0%	%	-15%
2	通学路合同点検において、道路管理者が実施すべき要対策箇所に対し、対策を実施した割合の向上			
	対策箇所 / 要対策箇所	0%	%	100%
3	未就学児が日常的に集団で移動する経路における緊急安全点検において、抽出した危険箇所に対しい対策を実施する。			
	対策済箇所 / 緊急安全点検で抽出した危険箇所数	0%	%	100%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
目標値の根拠 人口 1 0 万人当たりの交通事故死傷者件数の全国平均値と岡山市乖離率を参考として最終目標値を設定した。 対象箇所 5 箇所												

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
道路事業	A01-001	道路	一般	岡山市	直接	岡山市	市町村 道	交安	（ 2 ） 宍甘沼線ほか 2 路 線（流田一踏切）	歩道整備 L=0.6 k m	岡山市	■	■	■	■	■	74		-
	A01-002	道路	一般	岡山市	直接	岡山市	市町村 道	交安	（ 他 ） 西大寺南 1 7 号線 ほか（神武橋交差点）	交差点改良	岡山市	■	■	■	■		23		-
	A01-003	道路	一般	岡山市	直接	岡山市	市町村 道	交安	（ 1 ） 兼基中川町線（今 谷橋）	歩道整備 L=0.2 k m	岡山市	■	■				120		-
	A01-004	道路	一般	岡山市	直接	岡山市	都道府 県道	交安	（ 一 ） 江崎金岡線（君津 ～ 政津）	歩道整備 L=1.2 k m	岡山市	■	■	■	■		89		-
	A01-005	道路	一般	岡山市	直接	岡山市	市町村 道	交安	（ 他 ） 藤田 2 5 号線ほか	歩道整備 L=2.1 k m	岡山市	■					28		-
	A01-007	道路	一般	岡山市	直接	岡山市	市町村 道	交安	（ 2 ） 西大寺松崎久保線 （芳野橋）	歩道整備 L=0.1km	岡山市			■	■	■	242		-

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
道路事業	A01-008	道路	一般	岡山市	直接	岡山市	市町村 道	交安	（市）平野白石西新町線	歩道整備 L=0.03km	岡山市				■		4	-	
											小計						580		
											合計						580		

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
岡山市において当該社会資本総合整備計画関係課により事後評価を実施	令和8年2月
	公表の方法
	岡山市HPに掲載

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	小中学生の歩行中、自転車乗車中の交通事故件数の低減については、（一）江崎金岡線等の歩道整備事業を実施したが、指標値の目標達成には至らなかった。ただし、整備計画期間（H31～R5）と整備計画期間前（H26～H30）のそれぞれ5年間の累計件数を比較すると、整備計画期間前（H26～H30）は654人、整備計画期間（H31～R5）は383人となり、約41%の低減がされ一定の効果は発現された。 通学路の安全対策事業の実施率の向上については、用地交渉の難航により、対策完了とならなかった事業があり、目標達成に至らなかった。 未就学児の移動経路の安全対策の実施率の向上については、すべての要望箇所の対策を完了し、目標達成することができた。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	特になし

○特記事項（今後の方針等）

引き続き、安全・安心な通学路を確保するための整備を推進していく。

○ 目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	小中学生の歩行中、自転車乗車中の交通事故死傷者数を 15 %減少させる		
	最終目標値	-15%	指標最終実績値の算定方法は、整備計画の前後の単年度件数の比較であり、最終実績値を算出する対象年の令和5年の件数が増加したことで目標達成には至らなかった。その要因として、新型コロナウイルス感染症の感染症5類移行に伴う社会活動の活発化等によって、全国的に増加したため、目標達成に至らなかったと考えられる。ただ、整備計画期間（H31～R5）と整備計画期間前（H26～H30）のそれぞれ5年間の小中学生の歩行中、自転車乗車中の交通事故死傷者数の累計を比較すると、整備計画期間前（H26～H30）は654人、整備計画期間（H31～R5）は383人となり、約41%の低減がされ、一定の効果は発現された。
	最終実績値	31%	
2	通学路合同点検において、道路管理者が実施すべき要対策箇所に対し、対策を実施した割合の向上		
	最終目標値	100%	指標対象として、5箇所の通学路対策を完了させることを見込んでいた。4箇所は対策完了し、1箇所は対策未完了で、対策未完了箇所については、用地取得が必要な対策で、用地交渉難航により事業進捗が遅れたため、目標達成には至らなかった。
	最終実績値	80%	
3	未就学児が日常的に集団で移動する経路における緊急安全点検において、抽出した危険箇所に対し対策を実施する。		
	最終目標値	100%	目標達成
	最終実績値	100%	